空の詩　三編

魚（うお）と空

木坂（きさか）涼（りょう）

急降下。
鳥が
翼（つばさ）で
海を打つ。

①鳥は
もう摑（つか）んでいる。
②波は
海のやぶれ目を
ごまかしている。

魚は
海を脱（ぬ）けでる。
初めて　そして
③たった一度だけ。

空の高みで
もうひとつの空へ
のまれる。

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 「魚と空」の詩の種類として適当なものを二つ選びなさい。

ア 文語詩　イ 口語詩
ウ 定型詩　エ 自由詩　オ 散文詩

[　　・　　]

(2) ——線①「鳥は／もう摑んでいる」とあるが、何をつかんでいるのか。詩から漢字一字で書きぬきなさい。

[　　]

(3) ——線②「波は／海のやぶれ目を／ごまかしている」に用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 直喩（ちょくゆ）　イ 擬人法（ぎじんほう）
ウ 体言止め　エ 倒置（とうち）

[　　]

(4) ——線③「たった一度だけ」とあるが、たった一度だけどうするのか。解答欄（かいとうらん）に入る言葉を詩から書きぬきなさい。

たった一度だけ［　　　　　　］。

(5) 「魚と空」について正しく述べたものを二つ選びなさい。

ア 第一連では、鳥が海辺から飛び立とうとする様子を、「翼で／海を打つ」と表現している。
イ 第二連では、鳥と海が触（ふ）れた部分を、「海のやぶれ目」と表現している。
ウ 第三連では、魚が海へと逃（に）げてゆく様子を、「海を脱けでる」と表現している。
エ 第四連では、魚が鳥にのまれたことを、「もうひとつの空へ／のまれる」と表現している。

[　　・　　]